柳亭作
国貞画
影
十六編下
今由縁
鄙の面
仕題曲亭馬琴
十六編上
彫昇
文庫

今由様
郡の面
十六編上
仕題曲五周丸
野昇
文庫

舟子多く居る船山に到と云諺有其ゝ些異とる俤紫正續の一大長編桐壺の口切てより彼茶所の宇治十帖まで故翁のまゝ(で立とゝ)れ共塩瀬のフ名紅藍と江戸染ゆゑ本色有ゝ紀ゆ藤袴と縫さして絶ゝ主緒結術み く槙柱の麓木造と植木店辺ゆ精ゞゆ名のを一筆とゝ称と作者替とゝ趣も變り若菜い今戸の上ゆ移ゝを青々と繁栄ゝと破菅笠の鳥帽ゝが預甲て黄金のゆゝる花の咲迫生立ゝと夢のあらぬゝ辻褄合も蝶々ゝづゝに挿簪の掻頭ゝ前髪かき〳〵癡痛く思ゝお方や笑れむ嗟等ゝ一種のさゝゆ四五人ゝ作者ゞ交替り加之故ゆて石高ゝ瀬ゆ船衝ゆけ〳〵ゝ今頃風の日和ゝ荒べ人船頭の怠慢ゝく漕ゆゝ死ゝ兎道河の辺(なゝ暑ゞゝん山ゆ到ゝゝ朝日の名ゆゝも復已時ゆ立回り日出の合巻とめて未ゝ争ゝ書く座技ゝ書紀

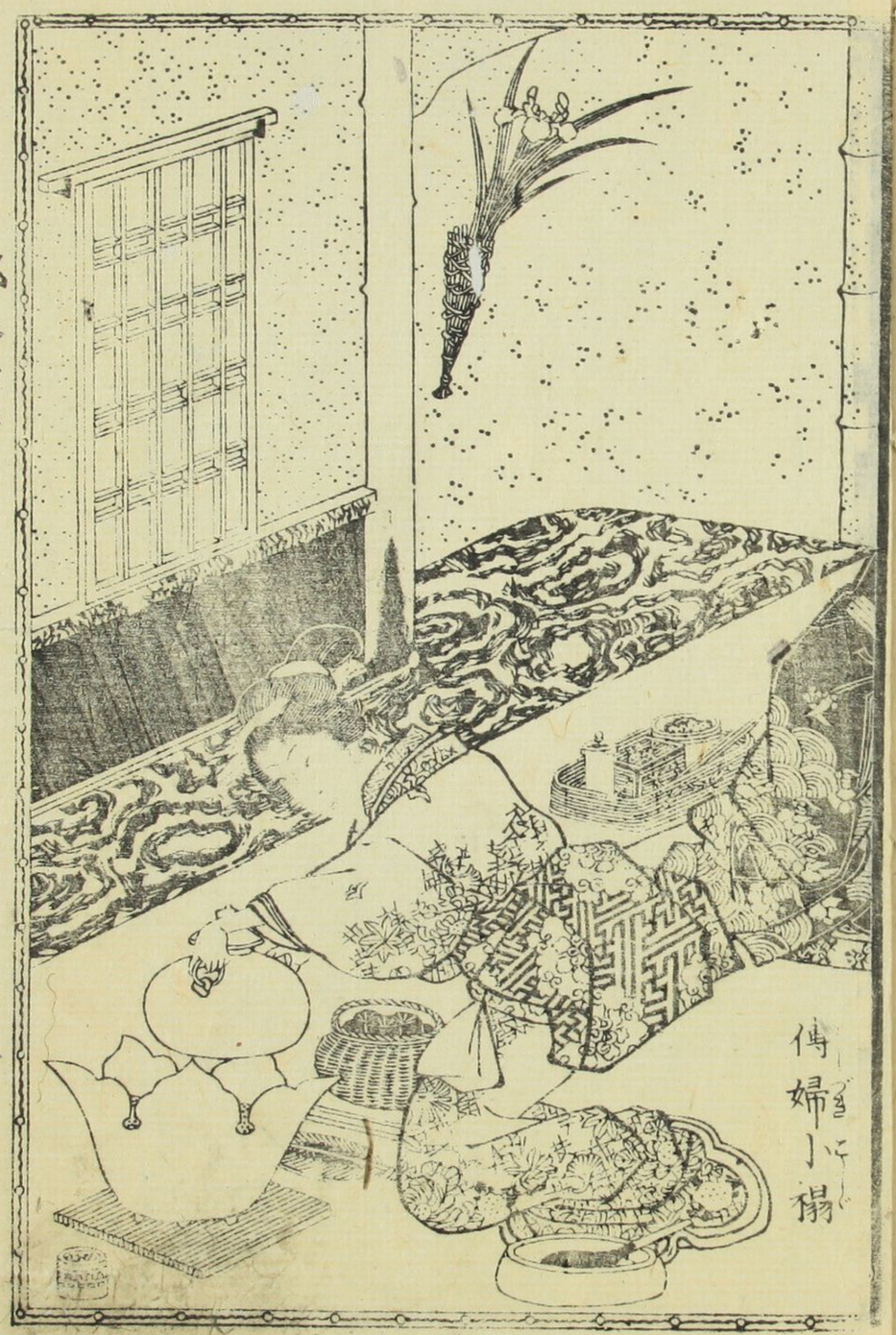
庚申年孟春鼓市

柳亭種秀謹述

寶樹院妙華尼公
俗称藤之方

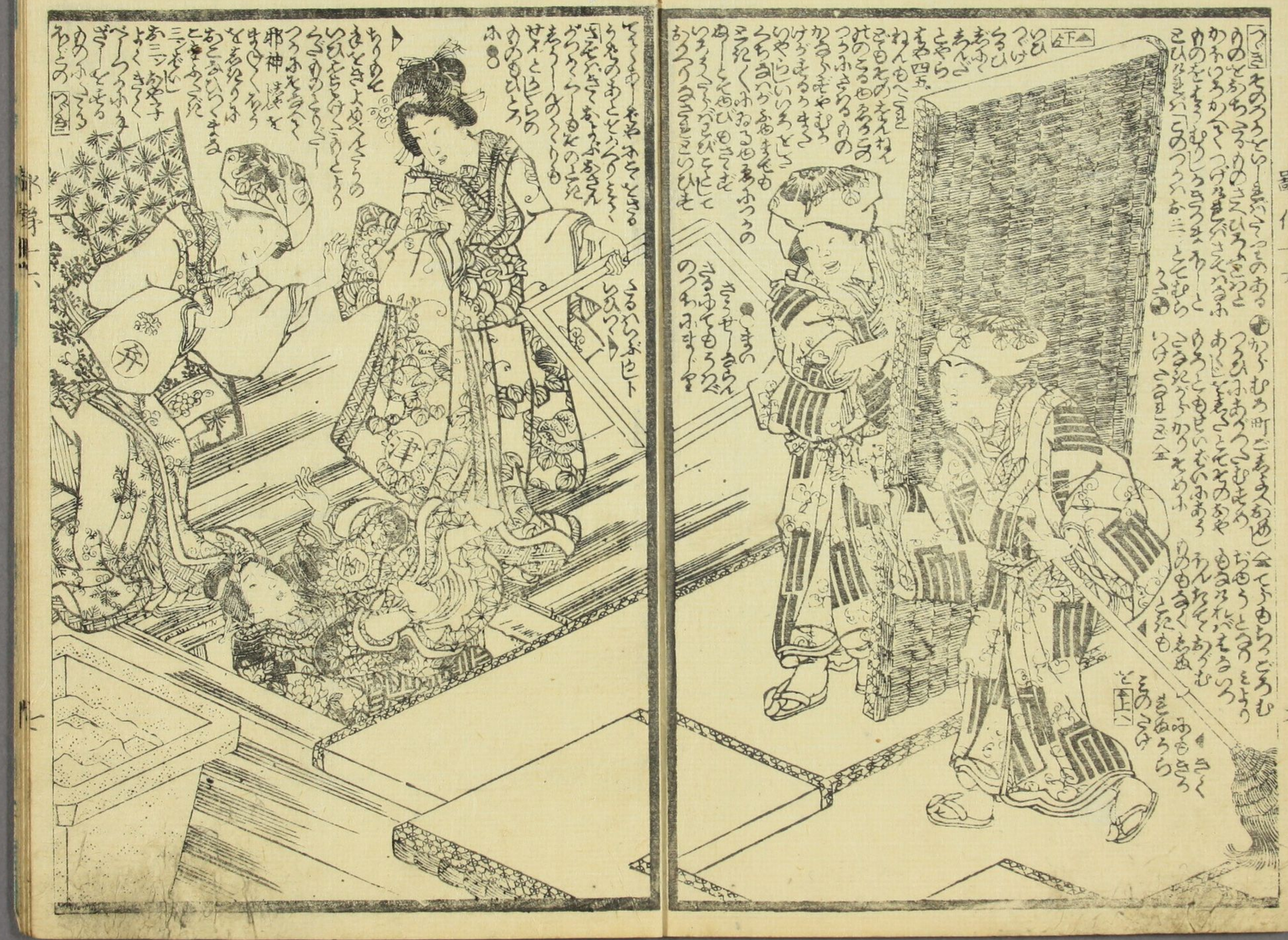
大原素太夫女
於三寛鬼
豊国画

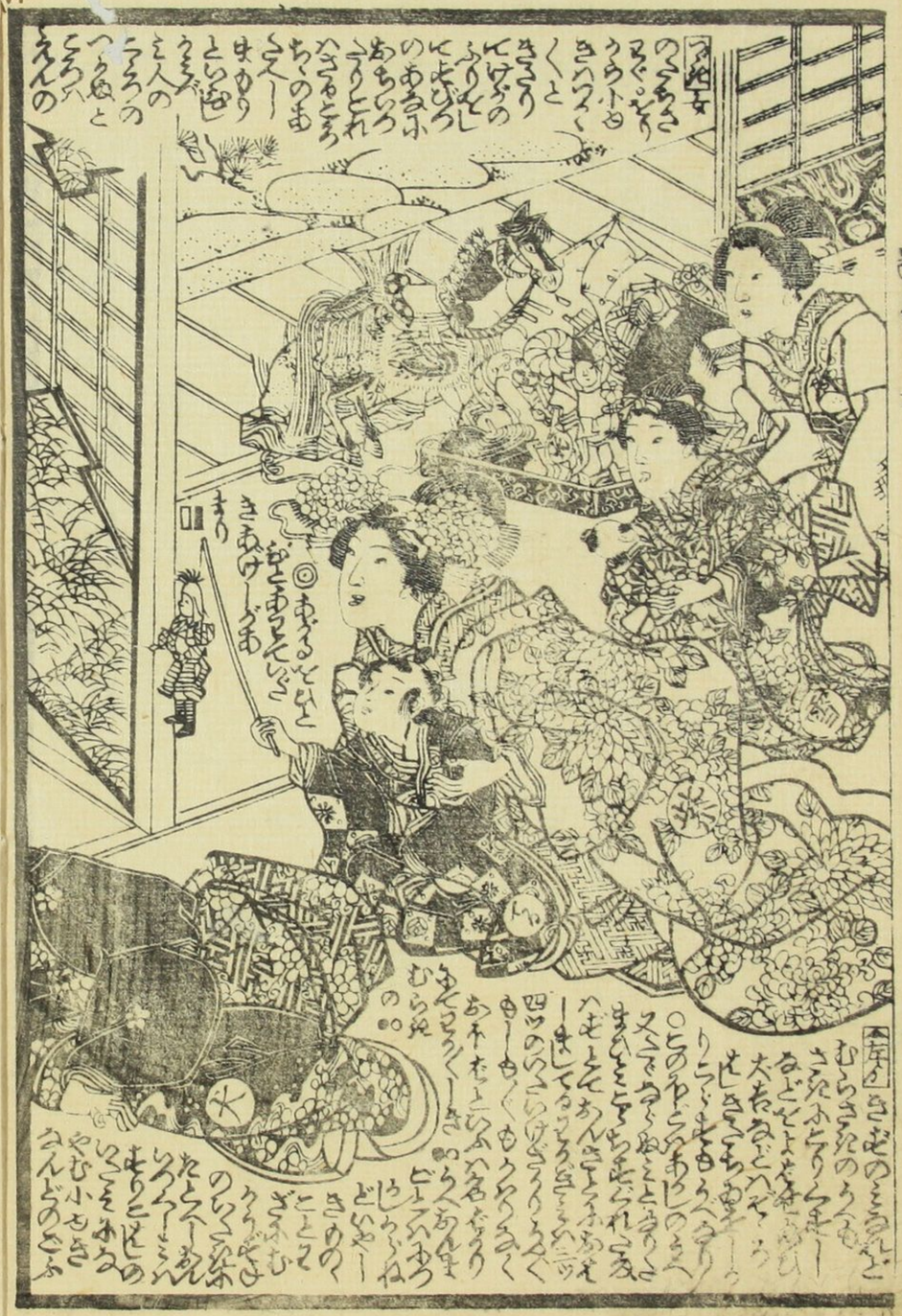
雅不號
本文の結構
薄茶の一段
面樣は其草紙
とりどりの
曲亭馬琴
六條御所
輝氏公
三世姫

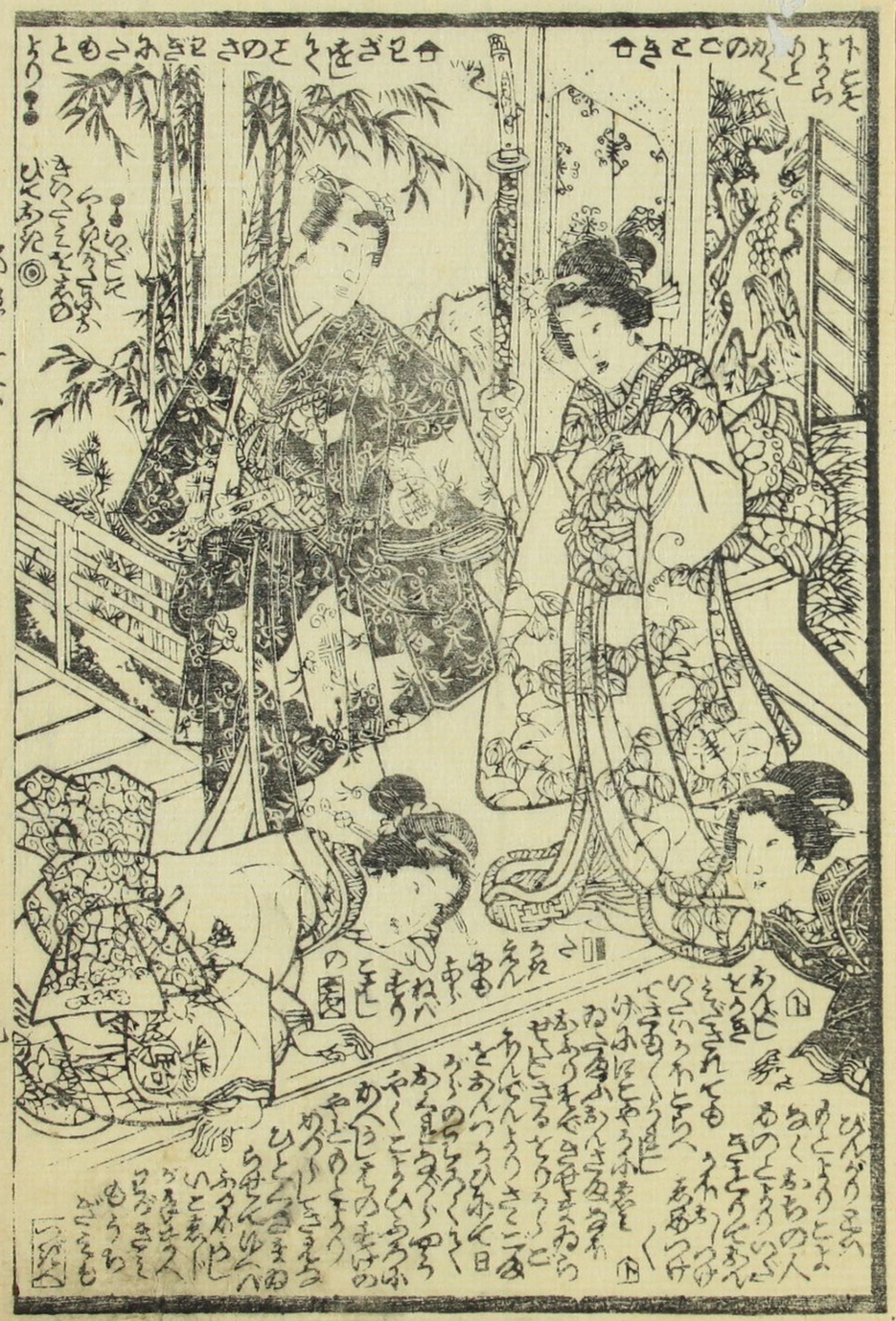

傳婦小揚

前将軍義植公
御室礒菜方
桂河久遠寺比丘尼
阿古木の墓詣の所
正編第廿七の十七
めうらの画と
あんえんくんくんの
発達を考へべし

二
太秦
藥師堂
太子堂







同行作者 名所図
滑稽富士詣
仮名垣魯文戯作
一孟齋芳虎画

[illegible]庚申の富士山開闢の御縁年に當るとて女人の登山を許されたるを[illegible]同行の老若男女士農工商藝人遊者甲州街道より登りて[illegible]直ちに下山す。帰路は東海に從す道中箱根七箇の温泉場より[illegible]大山詣横濱見物巻尾の[illegible]に洒落をつくし[illegible]東都帰着[illegible]名を銘す。巻中毎々雅俗を混じ[illegible]當時の流行を鑿ち[illegible]端唄浄瑠璃[illegible]流行里言の[illegible]京[illegible]高名通家[illegible]名は大江戸の[illegible]實地にて[illegible]作者の丹精一回々々の趣向[illegible]上序文は帰毎に[illegible]東都雷名の通家[illegible]狂文に筆を揮ひし[illegible]全本十編二十巻不残出板仕り[illegible]

板元 錦昇堂伏稟

地本繪草紙問屋 照降町 笑壽屋庄七梓

柳亭作
国貞画
十六編下

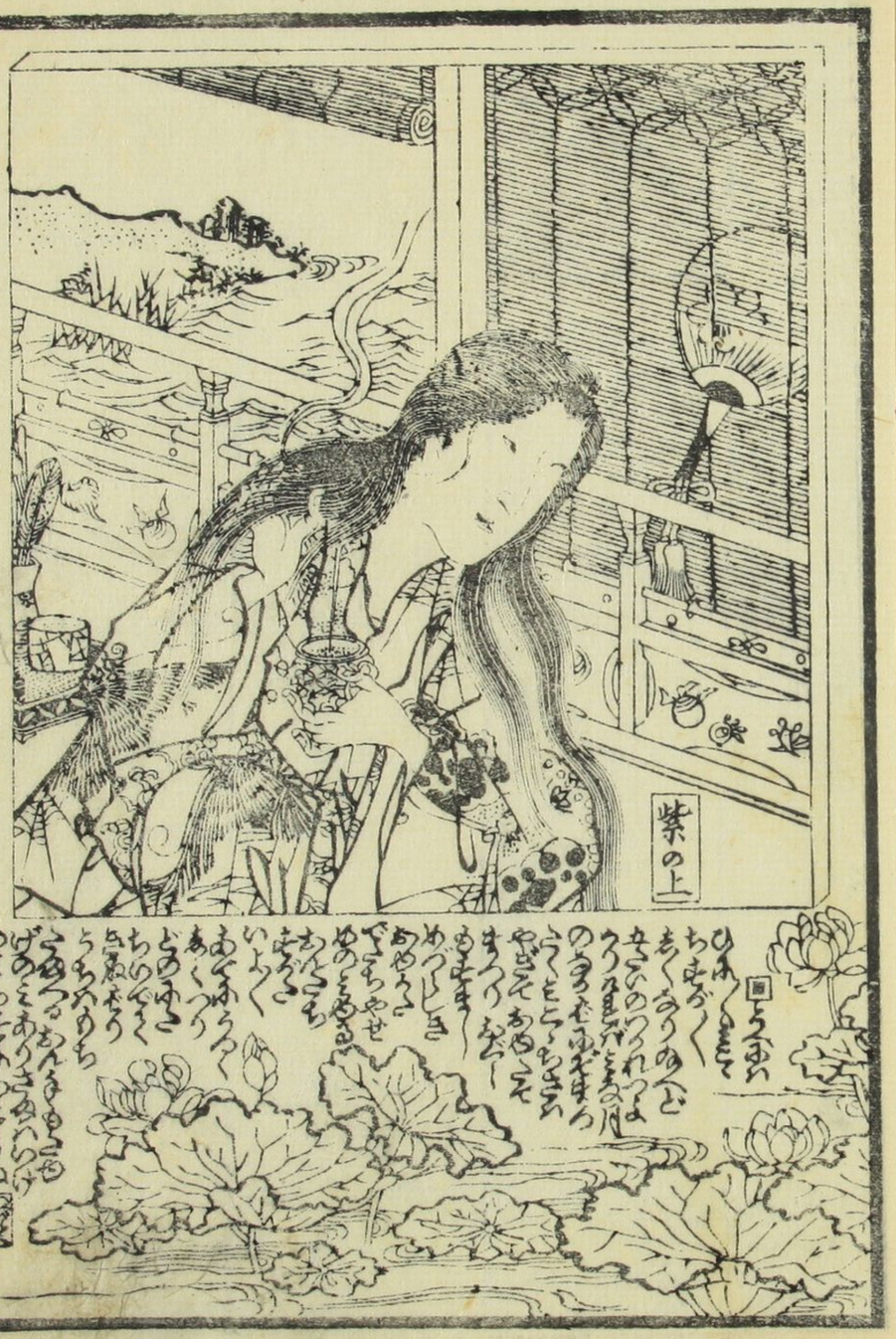
十六編の下
種秀作
真重
えひすやちゃん

三
五
上の巻より
雲井の東枝佐金助
邪淫十六

煙
弁

煙
弁
煙

仙果ヤ十四編
小夜
猫の
呼
作
紫上御髪
本
三世ひな柏もかの
風俗をと源文の仕
ふ流ト狭ば。ま様の
せをて栄ゐく
ゆ
ぜ


紫の上

種秀作 國貞画圖

稲妻形
怪鼠標
子七編
樂亭西馬稿
魯文作
國明画

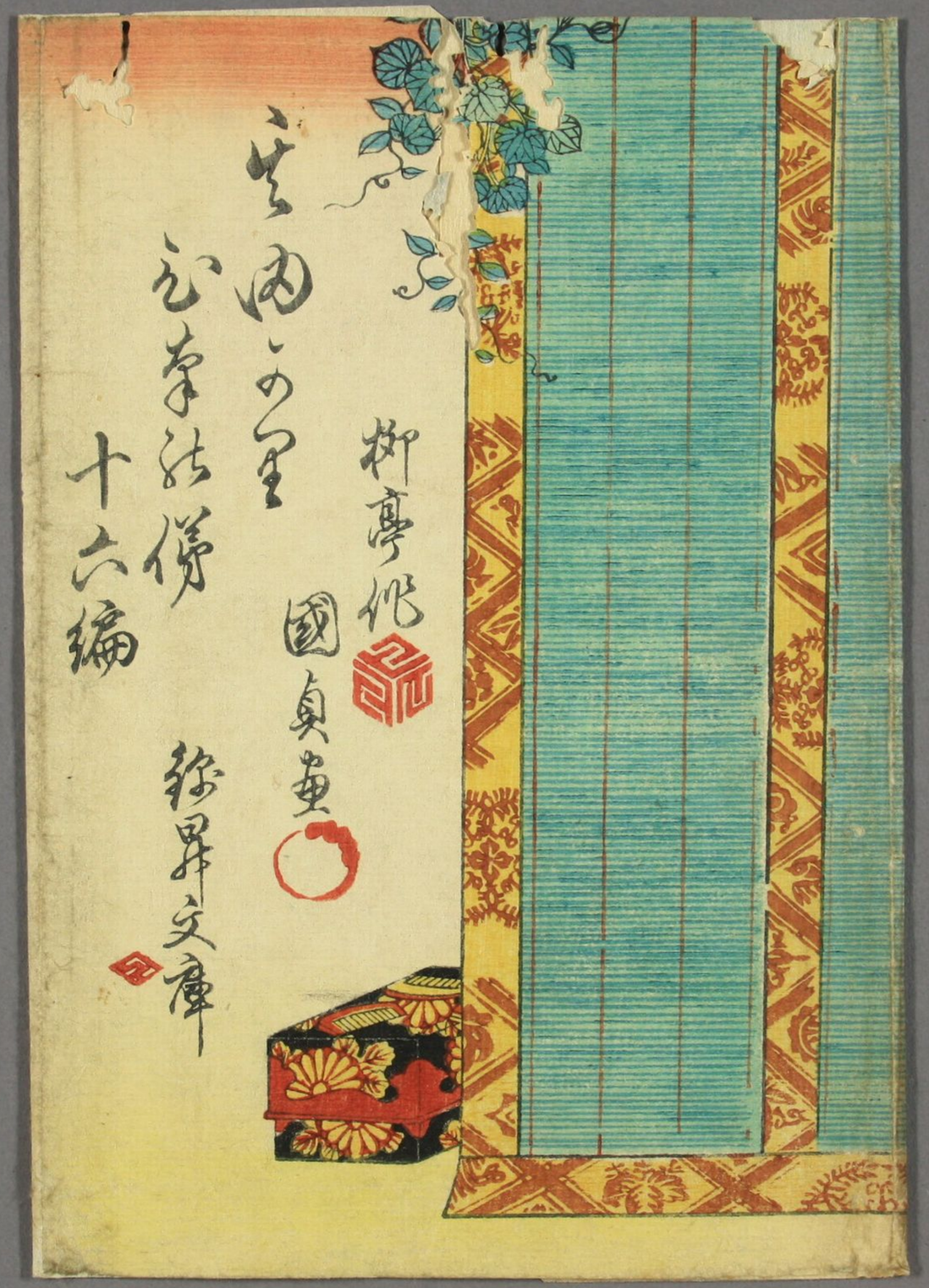
其由縁鄙俤 二十編 種彦作
二十一編 二十二編 國貞画

十勇士尾子の礎 五編 魯文作
六編 芳虎画

雨夜鐘四谷雑談 九編 魯文作
十編 芳虎画

比奈乃都大内譚 三編 種彦作
四編 芳虎画

地本問屋 江戸ちり町 壽ひすや


玄関之部
元亨法傳
十六編
御亭仙
國貞画
彩昇文庫